

## 第4回「長野県公共交通活性化協議会 松本地域別部会

### 地域公共交通分科会」議事概要

日時:令和8年5月 28 日(木)10時から11時30分まで

場所:松本合同庁舎 205号会議室

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

##### 【柄澤会長・松本地域振興局企画振興課長】

皆様こんにちは、県の公共交通活性化協議会松本地域別部会、地域公共交通分科会の会長を務めております松本地域振興局企画振興課長の柄澤と申します。今年の4月からこちらの方でお世話になっております。どうぞよろしく願いいたします。

本日は大変お忙しい中、また暑い中、皆様お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、皆様には日頃から県民の生活の足として必要不可欠な地域公共交通の維持確保にそれぞれの立場でご尽力いただいておりますことに、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

本年度新たに委員に就任された方もいらっしゃいますので、本分科会について簡単にご説明申し上げます。県では地域の公共交通政策を県政の重要課題の一つと位置付け、県も主体的に関与して取り組みを進めております。その一つとして令和6年6月に長野県地域公共交通計画を策定しましたが、あわせて県の公共交通活性化協議会の体制を見直しまして、地域別部会、分科会の再編をいたしました。これにより各分野の実務者から意思決定者までが地域公共交通の課題解決に取り組む体制を整備しております。

松本地域におきましては、地域公共交通計画で掲げている計画目標である通院・通学・観光に必要な移動の保証と、公共交通におけるサービスの品質保証の実現に向けて、松本広域圏で一体的に取り組めるようご協力をお願いしているところです。

さて本日の分科会では、主に3点についてご説明およびご意見をお伺いしたいと考えてお

ります。まず1点目ですが、昨年度見直しを行いました信州型広域バス路線支援制度の対象予定路線に関わる PDCA の実施について、2 点目が観光路線の品質保証について、3 点目が今年度実施予定の利用促進・普及啓発の取り組みについてでございます。

限られた時間ではございますが、本日の議論が県民にとってより便利で持続可能な地域公共交通の実現に繋がるよう、委員の皆様におかれましては現場の実情やそれぞれの立場から、率直かつ建設的なご意見を賜りますようお願い申しあげ、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

### 3 会議事項

#### (1) これまでの取組状況と令和8年度取組方針について

【事務局】

(資料1・P1～4に沿って説明)

<意見・質問等なし>

#### (2) 路線の PDCA 実施について

【事務局】

(資料1・P5～6に沿って説明)

【南安タクシー有限公司】

当社はこの路線については運行してないですが、観光路線である空港から小谷までの路線で考えると、10月から9月までの集計ということであれば11月になると思います。

【松本市】

PDCA は補助金の関係で今回実施するという話で良いかと思うんですけど、令和7年度(令和6年10月～令和7年9月)に関しては数字は出てますが、令和8年度(令和7年10月～令和8年9月)に関してですけど、PDCA 分析シートは令和9年度に作成するという認識でよいでしょうか。

【事務局】

まだ明確に決まっていない状況ですが、令和8年度に作成する想定。令和8年度の数字につ

いて、松本市だけでなく他の市村も数字がいつ頃出せるのかお聞きしたい。

【松本市】

松本市の場合、集計は年度で行っています。今は令和 7 年度の数字をいただいて集計等をしている状況です。令和8年度の集計は令和 9 年度に入ってからという形であり、今ぐらいの時期には精査した状態で数字は出せますが、途中で数字を出す形になると業者の方に負担をかける形になります。結構細かなデータになってきますので事業者との調整が必要になります。

【事務局】

交通政策課と相談し、必要な年度のデータ等が分かり次第連絡します。

信州型広域バス路線支援制度の路線もまだ確定していない状況ですが、申請は今年の10月から来年の9月までの運行経費に対して申請をする形になります。実績の数値も10月から9月の期間で出していただく形になると思います。

令和 6 年度までの交通カルテについては昨年度 SCOP さんに作成していただいておりますが、令和 7 年度(令和 6 年 10 月から令和 7 年 9 月)のデータについて提供いただきたいと思っております。後日、市村さんにデータ提供の依頼をさせていただきますので対応をお願いします。

(3) 観光路線の品質保証等について

【事務局】

(資料1・P7～9、資料2、資料3、資料4に沿って説明)

<意見・質問等なし>

(4) 今年度の利用促進・啓発活動事業について

【事務局】

(資料1・P10～11に沿って説明)

【南安タクシー有限公司】

あくまでも個人的な考えですが、我々はタクシー事業者で基本的にはタクシーを運行してる

わけですけど、タクシー事業も公共交通の一翼を担っている位置づけにされていますが、なかなかタクシー事業だけでは公共交通活性化には繋がりません。そういった中でどうするのか。当社の考え方としては1人の乗務員が全ての事業に携わるという考え方をされていて、デマンド交通の乗務員がタクシーや路線バス、貸切バスも運行します。今までの考え方は路線バスは路線バス、貸し切りバスは貸し切りバス、タクシーはタクシー、何か見えない壁があったと思うんですけど、そういったものを取り払うことによって全体を活性化できるんじゃないかと、そういう考え方で事業展開をしています。

今後の具体的なアイデア等につきましては、安曇野市におきましては松本市みたいに松本城等の観光施設がそんなにはない地域ですから、交通という面から考えますと新宿に「バスタ新宿」というターミナルがあるんですけど、一言で申し上げれば「バスタあづみの」みたいなものを作れば良いんじゃないかと。お客さんもそこに来て情報発信を受ければ観光にも回りやすくなる。ただそれは一事業者で出来るような費用じゃありませんので、やはり国なり県なり市なりの補助等の必要性というものを感じております。

#### 【事務局】

やはりそういう拠点があると使いやすいですし、バス、タクシー、それからJRさんも含めてあらゆる公共交通の形を組み合わせたり繋げたり展開する形が現実的に大事な視点かと思えます。貴重な意見ありがとうございます。

#### 【アルピコタクシー株式会社】

アルピコタクシーとしては、松本市様や塩尻市様をはじめ、各市町村からさまざまな運行業務を受託しております。基本的には、それぞれの自治体のお考えや方針に沿いながら、事業者として協力できる部分について運行を担わせていただいております。

一方で、私どもの最優先事項は安全運行であるため、自治体から「こうしたこともお願いしたい」とご要望をいただいても、運転中の乗務員が対応することは難しい場合があります。そのため、実施したいことがあっても対応できない場面があり、歯がゆさを感じることも少なくありません。

今後、利用促進やサービス向上を進めるのであれば、乗務員に新たな負担をかけるのではなく、デジタル技術の活用などによって効率的に実現できる仕組みづくりが重要だと考えています。そのような方向であれば、利用者の利便性向上にもつながり、私どもとしてもより協力しやすくなるのではないかと思います。

また、利用促進については、地域住民だけでなく観光客の利用も含めて考える必要があります。

す。現在、各市町村でさまざまなアプリやサービスが導入されていますが、それぞれが独立している状況では、地域外から訪れる方々の利用につなげることは容易ではありません。

例えばタクシー配車についても、都市部では Uber などのプラットフォームが広く利用されていますが、地方を訪れた方に対して「この地域専用のアプリをダウンロードしてください」とお願いしても、一時的な利用のために新たなアプリを導入していただくハードルは高いと感じています。

そのため、地域ごとに個別の仕組みを整備するだけでなく、既存の主要なサービスやアプリと連携した、広域的で利用者目線のプラットフォームづくりを進めていくことが、今後の利用促進において重要ではないかと考えています。

#### 【事務局】

最近 AI などの話も進んでいますけど、大都市部だと良いんでしょうけど、必ずしもそのままこのエリアに持って来てもペイするのか等の課題もある。ただ、バス事業者さん、タクシー事業者さん、JR さんの連携が観光で来られた方には便利かと思います。ありがとうございます。

#### 【東日本旅客鉄道株式会社】

当協議会では、バスの議論がメインですが、鉄道も公共交通機関でございますので鉄道も含めた議論をお願いできればと思います。

先ほど、KURURU の話がありましたが、ぜひ IC カードを使用していただきたいと思っています。鉄道では、大糸線で松本から穂高まで利用が可能であり、信濃大町駅と白馬駅でも利用が可能です。ぜひ、活用していただきたいと思っています。松本地域でもこの春から KURURU が導入されていますし、タクシーでも「ピツ」とタッチをしてお支払いいただければ、クレジットカードより支払う時間が短くなると思います。バス停付近の交通渋滞やタクシーの支払時に後ろに列ができるといったことがなくなるという意味でもおすすめです。その利用促進を地域で取り組んでいただければと思います。

また、観光で言えば、観光 MaaS が県主体でこれから進んでいくと伺っていますので、観光客の利便性向上に繋げる契機だと思います。例えば、松本城の入場券をあらかじめ電子チケットで購入して、並ばずに観覧できるようにするなど、利用しやすい形を期待したいと思っています。

地域が違う話で恐縮ですが、年 1 回の諏訪の花火大会では、その日のみ電車を利用されるお客さまがいらっしゃいます。Suica をお持ちでないために、切符を買うお客さまで列が出来

る状況です。皆さまがKURURUや Suica など IC カードを持っていただければ、そのような状況は解消されます。IC カードが普及していくことで、鉄道を含めた地域の交通がさらに便利になります。地道に取り組んでいくことが、地域交通の利用を促進する一つの道だと思ったところでございます。

#### 【松本市】

松本市においても利用啓発活動については非常に模索しながら色々考えています。先ほど行動変容というお話もありましたけれども、昨年度のデータになるんですが、パーソントリップ調査の自動車の分担率を見ますと 68%、70%近くあります。そこをどう変えていくか、という中で啓発グッズの作成などを考えてます。昨年デジタルスタンプラリーを行われたということですが、実際に参加者ってどれぐらいだったか教えていただけますか。

#### 【事務局】

まずアプリのダウンロードが必要なので、ダウンロードした方が 333 名。実際にバスに乗りして観光地を回った方が123名でした。

#### 【松本市】

ありがとうございます。今年度、バスに乗ってもらえる仕掛けを考えていければと思っていますので参考にしたいと思います。

具体的な啓発活動というのは松本市も色々模索しながらグッズを作ったりしている状況ですが、利用しやすさという部分で言いますと、先ほど JR さんの方からお話がありましたけど、松本市では色々ICTを進めてきてます。QRコードを使える決済とかクレジットカードも進めてますが、本年度から交通系 IC カードの導入ということで、Suica と連動しまして KURURU を入れております。今後色々分析していきますが、降りる時は皆さんほとんどキャッシュレスなので時間がかからず、定時運行の部分に関してはかなり効果があります。まだ朝のラッシュ時は課題もありますが、さらに外国のインバウンドの方にもクレジットカードも対応しているので、利用のしやすさの部分に関しては松本市も色々進めてきているところです。ただ啓発の部分に関しては行動変容も含めて検討しながら、模索しながら進めていくという状況ですので、皆様からご意見いただければと思っております。

#### 【朝日村】

啓発活動に関する予算は負担金などですか。どこからこのお金が出ているのかによっても内容がだいぶ変わってくるかと思えます。

#### 【事務局】

地域振興局には色々な分野、色々な関係者の方々に関係する課題を解決するための地域振興推進費がございます。地域振興推進費は横断的な課題を解決するために、地域振興局長がその分野に関して政策を打つ予算でございます。予算の全体枠の範囲内で色々な事業があり、事業ごと配分もございますけども、基本的にはまず何をやるかと、どういうところにお金がいくらかかるのかというのを確認させていただいた上で決めていく話になります。地域振興局として、地域振興推進費を活用して進めさせていただく予定です。

#### 【国土交通省】

利用促進は各自治体も取り組まれていますけども、なかなか難しい問題とっております。個人的な意見ですが、利用促進の取り組みはもちろん重要だと思いますが、バスとかタクシー、特にバスにつきましては、待っている間の環境作りも重要とっております。例えば学生が利用できるWi-Fiがあり、勉強して待っていただけるスペースがあれば利用状況は変わってくると思いますので、そういった取り組みも重要かとっております。

#### 【事務局】

公共交通計画の中の品質を保证するための具体的な取り組みについて、松本地域別部会では利用促進・啓発活動を掲げています。内容については再度検討してご相談をさせていただきますので、各市村さんや交通事業者さん、それぞれの立場でぜひご協力いただきたいと思います。よろしくお願いします。

#### 4 その他

#### 【事務局】

(参考資料に沿って説明)

<意見・質問等なし>

#### 5 閉会